

日本海エル・エヌ・ジー 新潟基地見学会を実施
～新潟開港150周年記念事業～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、新潟開港150周年記念事業の一環で、日本海エル・エヌ・ジーの協力を得て、11月19日（月）にLNG船およびLNG基地の見学会を開催し、新潟市立日和山小学校の5年生ら約55名が参加しました。

LNG基地見学に先立ち、当協会は同小学校で「工業を支える貿易～船による貿易・運輸～」と題した出前授業を行い、日本の産業は海運により支えられていることや海運を通じて世界とつながっていること、また、新潟港が担う役割やLNG船に関すること等についてクイズ形式で説明しました。児童たちは活発に授業に参加し、これらの基礎知識を身に付けました。



LNG基地では、8基あるLNG貯蔵タンクやローリー出荷設備などを見学しました。また、LNGを輸送する際にはマイナス162度に冷却し体積を1/600にすることで大量輸送を可能にしていることや、LNG基地が海に近いところにある理由などを学びました。さらに、当日は全長約300mのLNG船も停泊しており、巨大なLNG船を間近に見ながら、新潟港に運ばれたLNGがどのように私たちの生活に結びつくのかなども学ぶことができました。

参加者は、普段見ることのできないLNG基地内部やLNG船に興味津々の様子で「マイナス162度に冷やして運んでいることに驚いた」「思っていたよりLNG船やLNG基地の設備が大きかった」「日本まで何日かかるのか」「日本にLNG船は何隻きているの」などの感想や質問も寄せられました。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動をしてまいります。

